



2023年10月2日

各 位

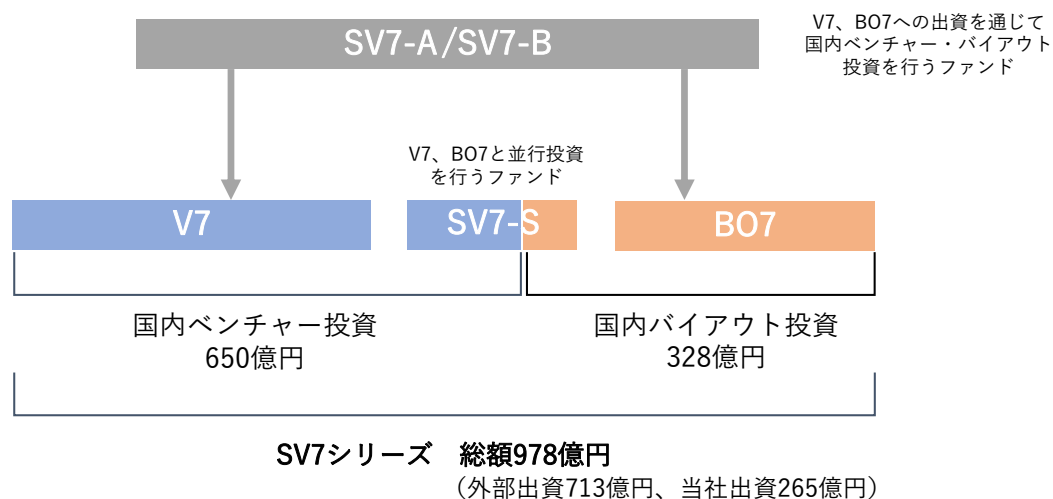
会 社 名 ジャフコ グループ株式会社
 代 表 者 取 締 役 社 長 三 好 啓 介
 コード番号 8 5 9 5 東証プライム市場
 問 合 せ 先 管 理 部 管 理 グ ル ー プ 古 賀 慎 二
 T E L 0 5 0 - 3 7 3 4 - 2 0 2 5

ジャフコ SV7 ファンド 最終クロージングのお知らせ

当社は、2022年6月設立の基幹ファンド SV7 シリーズの総額が 978 億円に達し、2023年9月30日をもって最終クロージングを迎えたことをお知らせいたします。

当社は今年設立 50 周年を迎えました。50 年間一貫していかなる環境下においても投資を継続し、新事業の創造にコミットしてきました。国内外における運用ファンドの累計コミットメント額は 1 兆円を超え、累計上場社数も 1,000 社以上にのぼります。ベンチャー投資に加えて、1998 年よりバイアウト投資も展開しており、その間に培ってきたネットワークや経験知を経営支援ノウハウ（HR、マーケティング・セールス、バックオフィス）に活かし、投資先の成長に貢献してきました。

2007 年設立の SV3 シリーズ以降は、ベンチャー投資とバイアウト投資を、同一のファンドで運用していました。SV7 シリーズでは、より多様な投資家のニーズに応じるため、ベンチャー投資を行う V7、バイアウト投資を行う B07、それぞれの専用ファンドを立ち上げ、その双方に出資する SV7-A/SV7-B も組成し、3 タイプのファンドについて、これまで募集を継続して参りました。



お陰さまで、数多くの金融機関、事業会社等の皆様から、当社の投資実績や投資活動に対するご賛同をいただき、最終的に V7 は 650 億円、B07 は 328 億円となりました。SV7 シリーズとしての総額は、SV6 シリーズの 800 億円より拡大し、また上限目安とした 950 億円をも若干上回る 978 億円（外部出資 713 億円、当社出資 265 億円）となりました。

(注) 現在も数名の機関投資家が、出資をご検討いただいております。これらの方々には、ジャフコが保有する出資持分 265 億円から一部を譲渡することにより、出資を受け入れる予定としています。そのため今後も、シリーズファンド総額の 978 億円は変わりません。



V7、B07 とともに既に投資組入れが進んでおり、今後 2、3 年にわたってポートフォリオを構築していきます。ベンチャー投資、バイアウト投資、それぞれのファンドを運用することとなりますが、当社が培ってきたリソース、ビジネスディベロップメント機能、バックオフィスを含め、全社組織が一つのチームとして投資先の成長にコミットし、ファンド運営を支えています。

当社は、「挑戦への投資で、成長への循環をつくりだす」をパーパスに掲げ、まだ見ぬ価値を生み出す挑戦に果敢に投資していきます。そして、ファンドパフォーマンスの向上、社会の持続的な成長に挑戦し続けます。

■SV7 シリーズファンド概要

※投資主体となるファンドのみ記載

正式名称	ジャフコ V7 投資事業有限責任組合
無限責任組員	ジャフコ グループ株式会社および V7 パートナー有限責任事業組合
投資対象	国内ベンチャー投資
ファンド総額	560 億円
運用期間	2022 年 6 月 24 日から 2032 年 12 月 31 日まで

正式名称	ジャフコ B07 投資事業有限責任組合
無限責任組員	ジャフコ グループ株式会社
投資対象	国内バイアウト投資
ファンド総額	288 億円
運用期間	2022 年 6 月 24 日から 2032 年 12 月 31 日まで

正式名称	ジャフコ SV7-S 投資事業有限責任組合
無限責任組員	ジャフコ グループ株式会社
投資対象	国内ベンチャー投資および国内バイアウト投資 V7、B07 と並行投資を行います。
ファンド総額	130 億円
運用期間	2023 年 3 月 24 日から 2032 年 12 月 31 日まで

〈運用中の国内基幹ファンド〉

2013 年設立	ジャフコ SV4 シリーズ	600 億円
2016 年設立	ジャフコ SV5 シリーズ	750 億円
2019 年設立	ジャフコ SV6 シリーズ	800 億円
2022 年設立	ジャフコ SV7 シリーズ	978 億円

■V7 パートナーを代表して 取締役社長 三好啓介のコメント

当社は国内にベンチャーキャピタルが存在しない頃から、その時代に合った投資モデルを作り上げてきました。2010 年以降は、厳選した投資先企業に持てる資金とリソースを注ぎこむ「厳選集中投資」を基本方針に掲げ、シード・アーリーステージと呼ばれる創業初期を中心に投資をし、関与してきました。日本においては、ここ 10 年ほどの間にスタートアップシーンは様変わりしました。困難な社会課題の解決にあたっては、スタートアップがその一翼を担っています。今回の V7 ファンドは、この拡大する日本のスタートアップ市場の中で、国内のみならず海外進出を目指す企業への投資と関与にも挑戦していきたいと考えています。志ある起業家に伴走するパートナーとして、全力で取り組んでまいります。



■B07 マネージング・ディレクターを代表して 事業投資部長 南黒沢晃のコメント

当社におけるバイアウト投資は、事業投資部が創設された 1998 年にスタートしました。累計投資社数は 58 社に及び、このうち既に 40 社が EXIT しています。

当社のバイアウト投資は、ベンチャーキャピタルとしての強みを活かしたユニークな取り組みに特徴があります。例えば、独自のネットワークを活かして販路を拡大し、スタートアップのテクノロジーやソリューションを、投資先の成長支援に活用しています。

創業・成長・成熟・衰退という企業のライフサイクルを乗り越えて、投資先企業の新陳代謝を促進し、再成長に導く。私たちは、PE 投資の機能を通じて、失われた 30 年といわれる日本の閉塞感を打破する一助になりたいと考えています。

■執行役員ビジネスディベロップメント担当 佐藤直樹のコメント

ビジネスディベロップメント部は、投資先の企業価値向上のため、14 名のスペシャリストが、顧客開拓（セールス・マーケティング）、人材強化（採用・育成、組織開発）、バックオフィス構築（管理体制構築、上場準備支援）等、成長ステージに応じた様々な投資先支援を行っています。当社は、投資先支援での圧倒的な経験、数多くの事例・知見を蓄積しており、実効性の高い「現場感」と、成功確度を高める「再現性」を何よりも重視しています。スタートアップを取り巻くエコシステムの構築も重要なテーマです。大手事業会社との新規事業創出に向けた連携、スタートアップ人口を増やす取り組み等、ヒト・モノ・カネの経営資源を経済全体に循環させ、スタートアップ市場全体の拡大に繋げていきます。

以上